

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	<p>⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】</p> <p>3年前の東日本大震災と大津波を忘れないためにも、再度映像でその様子や被害状況について確認し、その時の被災者の気持ちを考える。</p> <p>また、実際に被災地で震災津波を経験した方の話から、震災当時の様子や被災者の大変だった様子について理解を深める。</p>	総合的な学習の時間
<p>【題材】 復興体験事前学習 東日本大震災津波を振り返り、復興支援への思いをもたせる</p> <p>1 震災津波のDVDで被災の様子や被災状況を再確認する。</p> <p>2 実体験による震災津波講話を聞き、実際の様子や被災者の様子について知る。</p> <p>講師：本校 三浦政勝 副校長</p> <p>【対象】 全校生徒（18名）</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>今年度は、昨年度から始めた被災地復興支援としての神楽公演を継続して行う計画であるが、ただ引き継いで続けることでは復興支援としても、復興教育としても何の意味ももたないと思う。本来、復興支援や神楽公演は、被災した方々を思う強い気持ちや、一日も早い復興を祈っているものである。被災地にお邪魔し、被災した方々のために心をこめて神楽を舞うためには、生徒一人ひとりに復興支援への思いを改めてもたせる必要があった。新1年生を含め被災地を訪問するのに恥じないように、復興支援への思いをもたせることを目標に復興体験事前学習を計画した。</p> <p>1 事前学習 I 「震災津波のDVDで被災の様子や被災状況を再確認する」について</p> <p>(1) 目的</p> <p>現在の3年生が1年時に復興体験学習（被災地ガレキ処理ボランティア）の事前学習として震災津波のDVDを見たが、震災から3年余りが経過し、記憶も思いも薄れていっていると感じる。自然災害であり、起こるべくして起こった大災害であったかもしれないが、自然の力への畏怖、情け容赦なく街を、人の命をさらっていく震災津波への恐怖、今まであった郷土を失った絶望感など決して薄れていってはいけないと考える。直接の被災者ではないからこそ被災者の思いを考えることから学習をスタートさせたかった。</p> <p>そこで、今回訪れる宮古市と山田町の震災津波の様子をあらためて確認し、生徒の率直な考えを引き出そうとした。</p> <p>(2) 日時：平成26年8月19日（火）3校時</p> <p>(3) 会場：奥州市立田原中学校 理科室</p>		

(4) 参加者：本校全校生徒18名、全職員

(5) 内容

- ・復興教育担当が今年度の復興体験学習の予定について説明。今年度の活動にあたっての心構えやDVDを見る意味、復興教育担当の思いなども話した。
- ・宮古市と山田町の震災津波のDVDを見る。
- ・見終わった後、個人ごとに率直に思ったこと・考えたことをまとめる。

(6) 生徒の感想

***3年男**

震災があった年は津波の映像を何回も見ていたが、先生の言う通り忘れかけていた。再度見てみてやっぱり津波は怖いと思った。

***2年女**

黒い波が何度も何度も押し寄せ、車も、人も、家も、何もかもをさらっていくところを見て、これは私の知っている海ではないと思いました。何メートルもの波が街に入ってきて、跡形もない位、何もかもを持っていく。繋いでいかないといけない命を、海がいつも簡単に奪っていく。こんなことがこの世にあっていいのか、そう思いました。私は実際に見たわけではない。家族も家もある。だけど津波に遭い、家族も家も何もかも無くしてしまったら、見方は変わっていると思う。

***1年女**

震災津波DVDを見て、本当に驚きました。津波を私は体験したことはないけど、とても信じられませんでした。大きい波が塀を越えて家を流すのを見て、どれだけ怖かったのか少しでも分かった気がします。そして波が塀を超えた瞬間が怖かったと思うし、何も言えない感じだったと思います。黒い波がすべて呑み込んでいるのを見て、「これって、本当なの!？」と思いました。皆がすぐに避難をしているところは、やっぱり皆で支え合っている、協力し合っているからこそできたんだと思いました。私はそれをDVDで感じる事ができました。

***2年女**

DVDのように、誰かが撮ったのを何度か見たことがあります。でも、あらためて見るとやっぱり凄いです。内陸の人は地震で人が亡くなったりすることがあるので、地震におびえてるかもしれませんが、沿岸の人は地震と津波の両方あるので怖いと思いました。もし私があそこらにいたらと考えると、とっても怖いと思います。海は本当に怖いと思いました。すごい被害にあったことは誰にでも分かります。でも、それを直接目の当たりにした人にとっては大きなショックだったと思うので、少しでも元気になってほしいと思います。

***3年男**

DVDを見た時、まず最初に鳥肌が立った。避難している人達の「早く逃げろ、危ない!」などの声を聞くと心臓がとてもバクバクしていた。津波を見た時は「何だこれ、現実なのか」と自分も思ったし、被災者も感じたと思う。津波の恐ろしさは私にはすべては分からないけど、実際に体験した人のことを思うと悲しくなった。

2 事前学習Ⅱ「副校長先生による震災津波講話」について

(1) 目的

本校副校長は宮古市出身で震災のあった日は宮古市内の中学校に勤務していた。ご家族も宮古市内での通勤通学であった。あの日突然襲った大地震と大津波によって、街は、人々は、生活はどうなったのか、そして大切なことは何だったかを実際の行動や体験を通した話から学ばせる。



(2) 日時：平成26年8月19日（火）4校時

(3) 会場：奥州市立田原中学校 理科室

(4) 参加者：本校全校生徒18名、全職員

(5) 内容

本校三浦政勝副校長による震災津波講話。

三浦副校長は自ら率先して講師役を引き受け、震災津波のとき自分が見たすべての様子を記録した詳細な資料をもとに講話を行った。時折苦しみをこらえながら涙ながらに講話する姿に、生徒も深く感銘を受けた様子だった。特に人と人とのつながりの大切さ、被災地を訪問する際の心構えなどについて熱く語った。

(6) 生徒の感想

*1年女

副校長先生の話聞いて、どれだけ津波が怖いものか分かった気がします。副校長先生が感じたことを聞き、副校長先生が言ったように「人と人との支え合い・関わり」はとっても大切なことが、私は分かった気がします。人々の優しさだったり、皆一人ひとりが心配して声を掛け合ったり、協力したりしたことを聞いてすごいなと思います。その状況だったからこそできた行動だったと思うし、皆の気持ちは同じだったことが分かりました。

*3年男

お話を聞いただけで、とてもつらく、悲しくなりました。僕もおばあちゃんをこの震災で亡くしたので心が痛いです。

*1年女

辛くて悲しかったことを私たち皆の前で話してくれて嬉しかった。沿岸の方では地震の後には津波が来るのがますます怖いと思う。副校長先生が一番大切な家族よりも、生徒を一番に考えていて、先生なんだと思った。副校長先生が涙ぐんで話しているのを見て、3.11はつらく悲しいものだったんだと思った。

*2年女

私たちは津波にあったわけではないので細かいところまでは分かりませんでした。副校長先生が津波にあいながらも、生徒のために一生懸命になっている姿が浮かびました。電話も繋がらない中、不安でいっぱいだったと思います。最後の「人の繋がりは、コンピューターや携帯電話ではない」という言葉が心にしみました。

* 3年男

先生のお話を聞いて一番心に響いたのは「復興は人と人とのつながりである」という言葉で、とても心がジーンとしました。また、被災地のことを詳しく聞いたときは頭にその様子が浮かんできた。避難した山の中でどれだけの人が苦しんでいるのかなどを思うと、とても悲しくなりました。

3 震災津波DVDと副校長先生の震災津波講話を通して「神楽公演を前に思うこと」

* 1年女

被災したたくさんの人々が少しでも元気になれるように、笑顔で見てくれるようにと、そんな気持ちをもって舞いたいです。そして、少しでもパワーをあげられたらいいなあと思います。これからも大変だと思いますが、辛い時に私たちのことを思い出してくれるように、皆さんと心をつなげて舞いたいです。

* 2年女

今回の事前学習で、宮古市・山田町の人たちがどんなにつらい思いをしたか知ったので、これからも復興に向けて頑張ってもらえるように、心に届くような神楽を踊りたい。

* 2年女

大きなショックで、顔は笑顔でも心は悲しんでいる人は何人もいます。でも私たちが神楽を踊って、多くの方が心から笑顔になってくれるような公演にしたいと思っています。全部の仮設住宅に行けるわけではありませんが、行った所にいる人を全員笑顔にできるように頑張りたいです。

* 3年女

今まで私にとって神楽は、長い時間踊り疲れることで、いつもめんどくさいなあとか、早く終わらないかなあとか思っていて、適当に踊るだけだった。でも、長く続けている神楽を誇りに思っているし、被災地の方々が喜んでくれるのはうれしい。自分たちが踊ることで被災地の方々が喜んでくれるなら、頑張って、心を込めて踊ろうと思う。



* 3年男

身近な人が亡くなっている人や、津波で家が流された人など、神楽を見て下さる方々に元気を出してほしいし、そういう活動が県内でももっと増えてほしいと思う。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	<p>I 復興支援神楽公演</p> <p>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】</p> <p>⑩【県内外や海外の人々とのつながり】</p> <p>⑪【ボランティア】</p> <p>郷土の伝統芸能である神楽を通して様々な人との関わり、神楽を通して被災地に元気と笑顔を届けるという、田原中生にしかできない復興支援活動に誇りをもって取り組む。</p> <p>II 宮古市長講話</p> <p>⑬【地域づくり】</p> <p>⑭【復旧・復興へのあゆみ】</p> <p>被災地宮古市における市長さんの復興に向けた願い・思い・課題を知り、新たな地域づくりへの構想や取組について学ぶ機会とする。</p>	総合的な学習の時間
<p>I【題材】 被災地の宮古市・山田町での復興支援神楽公演</p> <p>1 被災地域の復興を願い、また被災した方々を元気づける活動。</p> <p>2 神楽を通して被災した方々との心の交流。（絆づくり）</p> <p>【対象】 全校生徒（18名）、引率教師7名、神楽囃子方3名同行</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>1 目的</p> <p>(1) 復興支援活動の一環として、宮古市・山田町の仮設住宅の被災者に、学校伝統の郷土芸能〈大田代こども神楽〉を披露し、復興を願うと共に郷土を愛し、岩手の未来を創造していく心を育てる。</p> <p>(2) 被災地の方々など、人とのかかわりを通して心の絆を大切にする気持ちを育てる。</p> <p>今年度 復興学習テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>人とかかわり、未来へつなごう 心の絆</p> </div> <p>2 期日：平成26年8月21日（木）～22日（金）</p> <p>3 宿泊場所：陸中海岸青少年の家〈山田町〉</p> <p>4 主な日程</p> <p style="padding-left: 20px;"><21日（木）></p> <p style="padding-left: 40px;">8：30 学校発</p> <p style="padding-left: 40px;">12：00 宮古市田老地区福祉センター着 (語りべ同行で田老地区散策)</p>		



- 13:30～ 衣装に着替え
 14:00～ 1回目の公演
 (田老福祉センター内)
 15:30～ 2回目の公演
 (雨天により宮古二中ピロティ)
 17:20 山田町陸中海岸青少年の家到着
 18:00～ 震災津波講話
 (講師：山本正徳宮古市長)



<22日(金)>

- 8:50 青少年の家出発 バス移動
 9:30～ 3回目の公演
 (山田町大浦漁村センター)
 終了後センター内で着替え
 10:30～ 海岸沿いをバスで散策
 (釜石駅まで移動)
 14:11 三陸南リアス線釜石駅発
 盛駅行き乗車 (乗車時間 57分)
 15:08 盛駅到着 (バスに乗車し帰校)
 16:40 学校着、下校



5 公演を終えた生徒の感想

***1年女**

神楽を舞い終わると拍手をくれて、笑顔で「ありがとう」と言われて嬉しかった。田老福祉センターでは、泣きながら「ありがとね」と言ってもらえて舞った意味があった、気持ちが伝わったんだなと思った。公演を終え、思った以上に皆さんに喜んでもらったので、来年以降も続けていきたい。

***3年女**

我々が神楽をやることによって被災地の方々が喜んでくれてとても嬉しかった。踊りの後の触れ合いで「ありがとう」とか「素敵だった」とか言われて、やってよかったなあと思った。私たちが踊ると、見てくれたみんなが笑顔になってくれたから、少しでも復興につながっているという実感がある。だからこれからもこの活動を続けていってほしい。

Ⅱ【題材】 山本正徳 宮古市長さんの震災津波講話

【対象】 全校生徒（18名）、引率教師7名、神楽囃子方3名

【実践の概要・詳細】

1 目的

- (1) 被災地宮古市の震災当時の様子や復興に向けた取組など市長さんから学ぶ。
- (2) 新たな都市づくりの未来構想を知り、共に郷土を創る気持ちをもつ。



2 日時：平成26年8月21日（木）18：00～18：50

3 会場：陸中海岸青少年の家（山田町）研修室

4 講話の主な内容 <配布資料をもとに>

- ・宮古市について（日本に誇れる宮古市の産業や特産物など）
- ・震災津波はなぜ起こったか（自然災害は必ず来るもの）
- ・自然災害被害を小さくする手立てとは（市長としての立場から）
- ・復興も含め、今後の宮古市、沿岸地域の未来構想について



5 宮古市長さんへ生徒の感謝のメッセージから

*2年女

難しいお話だったけれど市長さんが宮古市のために頑張っているんだなと思いました。人の意見もしっかり取り入れることが大切と聞いて本当にそうだなと思いました。市長さんがまだ仮設住宅に住んでいると聞いて驚きました。一日でも早く復興することを願っています。

*3年男

私は遠い所からしか応援できませんが、また昔の宮古に戻って笑顔が絶えない宮古市に戻ることを願っています。今回の講話を聞いてとても心にしみました。本当にありがとうございました。

*3年女

私は震災前の宮古がどんな所だったのか分からないので、実際に見てもどれくらい復興しているのかがよく分らなかったのですが、市長さんのおかげで、宮古の当時の状況や、復興に向けての取組などがよく分かりました。ありがとうございました。

【宮古市・山田町訪問（題材Ⅰ・Ⅱ）のまとめ】

（成果）

*昨年度に引き続きの被災地での復興支援神楽公演ではあったが、あらためて震災津波を振り返り、実際の体験を踏まえた講話などの事前学習によって、生徒は被災地を思い、被災した方々のために何ができるかという意識づけができ、新たな気持ちで取組に向かうことができた。

*自分たちの復興への思いを伝えながら実際に被災地の方々と触れ合い、交流する中で、温

かい感謝の言葉をいただき、思いが伝わった実感を味わうと共に心の絆を感じる事ができた。すべての生徒が、ぜひ来年度以降もこの活動続けていきたいという思いをもつことができた。

*今までは深い考えももたずに踊っていた神楽が、思いをもって、人のために舞うことで、あらためて神楽の素晴らしさや神楽のもつ力を認識することができ、地域の郷土芸能を伝承することへの誇りや意識づけにつながった。

*宮古市長さんの震災津波講話では、被災地のリーダーとしての思いや、復興も含め、未来に向けた力強い意気込みなどを感じることができ、他人ごとではなく共に岩手の未来を創ってきたいという思いをもたせることができた。

*神楽公演を終えた後、活動のまとめを行い10月の文化祭では展示や発表により保護者や地域の皆さんにも取組の成果を報告できた。

*新聞やテレビなどの報道機関の取材や報道があり、本校の活動を広く県内に知っていただくことができ、生徒たちの励みとなった。

(課題)

*この3年間の復興学習の軌跡を踏み台に、今後の本校の復興教育の方向性について全職員で協議しながら進めていく必要がある。

*「復興教育の目的」や「何を育てるか」の柱がぶれていかないように進めていく必要を感じる。

*元氣と笑顔を届ける活動として神楽公演をメインに多少の交流活動を行ってきたが、生徒たちの考えなども盛り込んだ交流活動の企画なども検討していきたい。

資料

平成26年度 田原中学校復興学習指導計画 (全17時間)

- ◆ 8 / 19 ・震災津波DVD・・・・・・・・・・1時間
- ・震災津波講話・・・・・・・・・・1時間<講師：副校長先生>
- ・神楽練習・・・・・・・・・・2時間
- ◆ 8 / 21～22 復興支援活動(神楽公演等)・・11時間 (内6時間は学校行事)
- ◆ 8 / 27 活動のまとめ・・・・・・・・・・2時間

※個人のまとめレポート・公演のビデオ・写真等を文化祭で展示・発表(プレゼン)する。

※個人のレポートをまとめ、仮設住宅の方々への感謝のメッセージを作成して送る。